



読書のすすめ！毎日30分以上、本を読む時間があるといいですね！

読書は、語彙力や想像力を育てるだけでなく、新しい世界を知るための「どこでもドア」のような存在です。お子さんが「本って面白い！」と思えるきっかけ作りのために、低学年・中学年・高学年別のポイントをまとめました。

学年別・読書のポイント

【低学年】まずは「楽しさ」と「達成感」文字を読むことに慣れる時期です。無理に長い本を読ませる必要はありません。ポイント:絵が多くてワクワクするもの、声に出して楽しいもの。

【中学年】「自分と似た誰か」に共感する少しずつ客観的な視点が育つ時期です。物語の主人公に自分を重ねるようになります。ポイント:学校生活、冒険、友情をテーマにした物語。

【高学年】「社会」や「未知の世界」へ広げる論理的な思考ができるようになり、歴史や科学、複雑な人間関係にも興味が湧きます。ポイント:実話に基づいた話、SF、ミステリー、図解が詳しい解説本。

本が好きになる「3つのコツ」

「漫画」や「図鑑」も立派な読書:「活字だけの本を読んでほしい」という親心はわかりますが、まずは興味のある入り口からOKです。漫画から歴史や科学に夢中になる子は非常に多いです。

読み聞かせを続けてみる:自分で読めるようになって、親に読んでもらう時間は子供にとって特別な「安心の時間」です。少し難しい本を親が読んであげると、物語の深みを味わえます。

大人が楽しそうに読む姿を見せる:「勉強しなさい」と言われるより、隣で大人が「この本面白いなあ」と夢中で読んでいる姿を見る方が、子供の好奇心を刺激します。

親子で楽しめる「本の探し方」:図書館の特集コーナー季節や行事に合わせた「ハズレのない本」が見つかる。書店でのジャケ買い表紙の直感で選ぶことで、本への愛着が湧く。国語の教科書にある推薦書は同年代の子が「面白い」と感じた本の傾向がわかる。ちょっとしたアドバイス本を読み終わったあとに「どんな話だった?」と聞きすぎると、子供は「テストされている」と感じてしまうことがあります。「お母さんはこのシーンが好きだったな」と感想をシェアするくらいが、会話を広げるコツですよ!

親子で楽しむ! 子どもの「読書好き」を育てる成長ロードマップ

学年に合わせた読書のポイントと、親ができるサポート方法を伝え、子どもが本に親しみきっかけを作る。

読書は想像力を育む「どこでもドア」です。子どもの発達段階(低・中・高学年)に合わせた適切なアプローチと、親がプレッシャーを与えずに読書環境を整えるための具体的なコツを解説します。

【低学年】
「楽しさ」と「達成感」を優先
文字を読むことに慣れる時間。
絵が多く、声に出して楽しい本を選びましょう。

【中学年】
「自分と似た誰か」に共感する
客観的な視点が育つ時期。
学校生活や友情、冒険物語がおすすめです。

【高学年】
「社会」や「未知の世界」へ広げる
論理的な思考を活かし、歴史や科学、
複雑な人間関係の本に挑戦する時期です。

本を好きにする「3つのコツ」と探し方

漫画や図鑑も
「立派な読書」
活字にこだわらず、子どもの
興味がある入り口を
尊重することが大切です。

大人が楽しそうに
読む姿を見せる
「勉強しなさい」と言うより
も、大人の好奇心を見せる
方が刺激になります。

感想は「シェア」して
会話を楽しむ
質問使わずに、
本の感想を伝えるだけで
会話が広がります。

「ハズレのない本」の探し方

季節の特集	図書館の特集コーナー 季節や行事に合わせた 「ハズレのない本」が 見つかる。
書店でのジャケ買い	表紙の直感で選ぶことで、 本への愛着が湧きやすくなる。
教科にある推薦書	同年代の子どもの 「面白い」と感じた傾向が わかる。